

京都大学訪問研修

8月4日

8月4日に「京都大学訪問研修」を実施しました。1、2年生1名ずつ2名が参加し、本校卒業生（農学部4年生）案内のもと、京都大学内を見学しました。卒業生の計らいで、奈良県の高校2年生2名も急遽参加することとなり、京都大学で合流しました。

【行程】

午前		午後	
7:30	広島駅新幹線口集合	12:45	農学部 森林科学科 生物材料化学分野 高野俊幸教授の研究室見学
8:06	広島駅発		農学部の紹介の後、多くの実験室等見学
9:46	京都駅着	14:15	農学部から北部食堂に移動
10:30	京都大学で卒業生と奈良県の高校生と合流。吉田南総合図書館を見学	14:30	北部食堂2階にて、卒業生との懇親会。卒業生の友人2名も参加。
11:10	図書館から百周年記念時計台へ移動 京大ショップで買い物	15:30	京都大学から京都駅へ出発
11:20	卒業生案内のもと吉田キャンパス内を散策	16:21	京都駅着。お土産など買い物
11:45	北部食堂にて昼食。卒業生と談笑。	16:46	京都駅発
		18:23	広島駅着 解散

【京都大学訪問研修の様子】

【9:46 京都に到着。京都駅から京都タワーが一望できます】



【10:30 京都大学吉田南総合図書館に到着。卒業生（農学部4年生）と合流しました】



京都大学に到着して、まず初めに大学生しか入れない図書館の書庫を見学しました。比較的新しい本から、明治時代のものまで貴重な文献が多くありました。生徒と一緒にボール紙の箱に包まれた古今和歌集と源氏物語を見つけ、中身を見ようとしたのですが、明らかに古いものであることが一目でわかり、開くのがはばかられ、その

まま元に戻しました。想像でしかありませんが、江戸時代以前のものではないかと感じました。中には巻物もありました。生徒たちはその圧倒的な蔵書量に興奮した様子で、実際に本を手にとって開いていました。いつまでもいられるぐらいでしたが、日程の都合上、名残惜しそうに図書館を後にしました。

【11:10頃 百周年記念時計台前の京都大学正門に到着し、記念撮影】



(奥に見える時計のある建物が百周年記念時計台です)

図書館から百周年記念時計台へ移動し、京都大学の正門で記念写真を撮りました。京大ショップで京大グッズなど買い物をして、昼食時間まで、卒業生案内のもと、京都大学内を散策しました。研究用に飼育しているオオサンショウウオのいる池や、各学部棟について紹介してくれました。その1つにかつて湯川秀樹とアインシュタインが会った建物がありました。建物1つ1つをよく見ると、ほとんどの建物に地下階があるのが見て取れました。卒業生の説明によると、京都の景観条例の関係で高い建物を建築できないので、階数を少しでも多くするため、地下階を設けたとのことでした。

【11:45頃 北部食堂に移動し昼食をとりました】



【12:45 高野教授の研究室を訪問し、農学部についての説明を受けました】



【真剣な表情で説明を聞いていました(写真の右側に奈良県の高校生が座っていました)】

午後からは、農学部森林科学科生物材料化学分野の高野俊幸教授の研究室見学をしました。初めに、農学部の紹介があり、農学部と言っても、農業だけでなく、植物や水産、畜産、林業に至るまで、非常に幅広く研究分野があることと、農学を研究するためには、生物、物理、化学、地学がすべて関わることを話され、高校生には幅広く学んでおいてほしいとおっしゃっていました。高野教授の「高校の理科の教科書は非常によくできており、こんなことまで載っていると感じる。しかし、その理由が書いてない」という言葉が印象的でした。卒業生は確かに4年生の今になって高校の教科書を見返すと「あ、ホントだ。高校のときに習っていたんだ、ということを実感した」と述べていました。また、高野教授によると木材の中には化学成分のセルロースが含まれており、それを抽出して作られた身近なものがセロテープであり、セロテープは代表的な木材製品である、とのことでした（他に、例として衣類、火薬を挙げられていました）。その間、生徒は高野教授の説明を食い入るように聞いていました。

【高野教授自ら多くの実験室を案内してくださり、器具等の説明をしてくださいました】



【高価な装置がたくさんありました】

(※左下の写真の装置は比較的安価な部類だそうです)

(※右下の写真では、グラスなどの実験器具の中には、既製品のものを使用するだけでなく、必要に応じて、研究室でガラスを加工して作ることもあるそうです)



【農学部森林科学科らしく、木材製品がある実験室も案内していただきました】

(※左下の写真では右側後方に木材がありました。右下の写真はわかりにくいですが、高野教授(写真中央の方)が強度実験をした木材製品を見せてくださいました)



※この他にも多くの実験室・装置・器具などを見せてくださいました。高野教授はご自身の研究活動の合間で本校生徒のために貴重なお時間を割いてくださったことに、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

農学部と各分野に関する紹介のあとは、数多くの実験室を見学しました。どの部屋もところ狭しと実験器具が置いてあり、高野教授が1つ1つ丁寧にどのような器具でどんな実験に使うか等説明してくださりました。印象的だったのは農学部森林科学科の実験室にも関わらず、木材が全く見られなかったことでした。成分を抽出して実験や調査するというこの意味がよくわかりました。「木材加工」という実験室でようやく木材と出会いました。そこでは木材をどのように加工したら強度が変わるのかといったことをされているとのことでした。また、普段学生も簡単には立ち入れないようなNMR装置が置いてある実験室も覗かせてもらいました(ある一定の範囲を超えて中に入ると強力な磁力の影響で時計が壊れたり、身に付けている金属類がくっついたりしてしまうそうです)。

あっという間に1時間半が経ってしまい、高野教授にお礼を述べて、農学部を後にしました。生徒たちは普段見ることができない実験器具の数々を見て興奮した様子でした。

【14:30 北部食堂2階の一角で卒業生との懇談会】

(最初は舟入生だけで、少し談笑しました。黒い服の学生が農学部1年生、薄緑の服でカバンを背負っている学生が案内役も務めてくれた農学部4年生です)



【その後、奈良県の高校生と卒業生の友人2名(総合人間学部4年生、工学部4年生)が加わり、8名で和気あいあいとした懇談会となりました。高校生に京都大学での学生生活などを熱心に語ってくれました。生徒たちも興味深い様子で聞き入っていたり、質問したりして過ごしました】



北部食堂の一角で、本校卒業生(農学部1年生)と案内してくれた卒業生の友人2名(他学部の4年生)と合流し、計8名で懇談会を行いました。卒業生たちは大学生生活のことを話したり、大学の講義で実際に使っているテキストを生徒たちに見せたりしていました。学部1年生の卒業生は今後、どういう研究を行っていききたい、という展望を語り、学部4年生の卒業生およびその友人たちは、今の研究室を選んだ理由や大学院に進学して、こんな研究に取り組みたいと熱意を語ってくれました。4人の話に共通していたのは、「高校生と学部生のうちに色々なことに興味をもって学んだり、やりたいことを見つけたりすることが重要だ」ということでした。生徒たちは真剣な眼差しで大学生の言葉に耳を傾け、今抱えている悩みや疑問に思ったことを質問するなど、密度の高い時間を過ごしていました。時間はあっという間に過ぎてしまい、まだまだ話したいという想いのまま名残惜しそうに京都大学を後にしました。

帰りに生徒たちに今日の感想を聞くと、印象に残った場所は図書館、実験室と2人は違った場所を挙げましたが、卒業生との懇談会はずっと過ぎたかったと語っていました。また、オープンキャンパスでは体験できないであろうことが今日は体験できて、非常に有意義な時間を過ごせた、と話していました。奈良県の高校生と一緒に過ごしたことも刺激になったようで、今後の学校生活をより豊かに、そして学習に励んで第1志望に合格できるよう期待したいところです。

協力してくれた本校卒業生2名および舟入高校とは縁がないにも関わらず協力してくれた卒業生の友人2名にこの場を借りて感謝します。ありがとうございました。